

小平市議会ニュース

中倉 茂和 なかくら しげかず | 2026年 Vol.5



誰ひとり取り残さない社会に！

会派／市議会いのちの党
所属委員会／環境建設委員会
・公共施設マネジメント調査特別委員会
・小平市都市計画マスタープラン全体構想特別委員会
発行日／2026年10月10日
発行責任者／中倉茂和

ごあいさつ

山本太郎前代表の辞任に伴い、党名が「れいわ新選組」から「いのちの党」に変わりました。これに合わせ、会派名も「市議会れいわ新選組」から「市議会いのちの党」に変更しました。名称は変わりましたが、党の理念や政策、そして小平市議会における私の政治姿勢は、これまでと変わりません。これからも、こどもからお年寄りまで、誰もが安心して暮らし、「小平市に住んでよかった」と思えるまちを目指します。自ら地域に足を運び、みなさんの声に丁寧に耳を傾けながら、誰一人取り残さない社会の実現に向けて、誠実に、地道に力を尽くしてまいります。

プロフィール

1960年 山口県岩国市生まれ
1983年 福岡大学工学部機械工学科卒
1983年 コンピューター保守会社にてATM等の保守業務を担当
1988年 音楽業界にて女優兼歌手やフュージョン系バンドのマネージャーとして従事
2001年 印刷会社の製袋工場にて製造現場や工場長を経て品質管理や衛生管理を担当
2022年 元衆議院議員秘書
2023年 小平市議会議員選挙初当選

<趣味> 音楽鑑賞
スポーツ観戦(野球・陸上など)
<好きな言葉> 一期一会

report

議会で一般質問しました。

※令和7年9月定例会（9月12日）、本会議での一般質問

「孤立ゼロ」「孤独死ゼロ」へ！



小平市における「孤立ゼロ」「孤独死ゼロ」の取組について

Q 高齢者の孤立ゼロを掲げた取組の実施または検討は。

A 地域包括ケア推進計画で高齢者の見守り体制の充実を施策の柱の1つとしている。自治会や民生委員など多様な主体が見守り活動に取り組むことで高齢者の孤立防止を図っている。

Q 市民、自治会、NPO等が参画できる仕組みの導入は。

A 自治会等は市が活動の在り方を直接決めるものではないが、様々な見守り事業や市民等の協力により、高齢者の孤立防止が図られていると捉えている。

<質問を終えて>

高齢化や単身世帯の増加に伴い、社会的孤立や孤独死は身近な課題となっています。今回の一般質問では、足立区の「孤立ゼロプロジェクト」を参考に、小平市の取組を確認しました。小平市でも地域包括支援センターや見守りボランティア、協定事業者などによる見守りが行われています。今後は、地域住民や事業者、関係団体がより連携しやすい仕組みを整え、官民一体で孤立を防ぐネットワークを強化することが重要です。誰もが地域で安心して暮らせるよう、小平市に合った「孤立ゼロ」「孤独死ゼロ」の取組を引き続き提案していきます。

※令和8年3月定例会（2月26日）、本会議での一般質問

給食センターで不登校児童・生徒へ食の支援を！



不登校児童・生徒への給食支援について

Q 不登校児童・生徒が学校給食を食べられない現状について、市としての認識は。

A 家庭で十分な栄養を摂取できない場合、健康面での影響が生じ、食育指導を通じた栄養バランスなどへの理解が進まない状況であると捉えている。

Q 不登校児童・生徒に対する給食支援の必要性への見解は。

A 学校以外の場所で児童・生徒に給食を提供するためには、衛生管理や配送等の人員を確保することなどの課題があるため、現時点では難しいと捉えている。

<質問を終えて>

文部科学省の調査では不登校児童・生徒は増加しており、小平市でも令和6年度は小学生222人、中学生332人と過去最多となりました。今回、給食センターなどを活用した給食支援を提案しましたが、衛生管理や人員配置の課題から現時点での実施は難しいとの答弁でした。一方で、他自治体の事例は今後も研究していくとの回答もありました。不登校支援では、学びだけでなく「食」を通じた健康支援や社会とのつながりも重要です。今後も先進事例を参考に、小平市で実現できる支援策を提案していきます。※令和8年9月定例会で補正予算が組まれ、実現することになりました！

制服リユースで 家計の負担軽減を！



公立中学校の制服リユース事業について

Q 現在、公立中学校の制服購入費が家庭の負担になっているという認識はあるか。

A 学生服の価格は、中学校で異なるが、令和6年度の市内公立中学校の平均額は、男子が約5万円、女子が約5万9千円で、一定の負担があると捉えている。

<質問を終えて>

制服購入費は、平均で男子約5万円、女子約5万9千円と、子育て世帯にとって決して小さくない負担です。市内すべての中学校で制服リユースが行われている一方、有償・無償の違いや、サイズ・在庫不足など学校ごとの課題も明らかになりました。制服リユースは、家計支援だけでなく、ごみ減量や資源循環にもつながる取組です。市主体での新たな事業化には至りませんでしたが、今後も利用しやすく、学校間で差が生じにくい仕組みを求めています。

Q 市として学校や地域と連携した制服リユース事業の導入を検討できないか。

A PTA等が学生服等のリユース体制を構築しているため、新たな取組を行う予定はない。

※令和8年6月定例会（6月4日）、本会議での一般質問

避難者受付をLINEで！



LINEで災害避難者受付の迅速化や混雑緩和を

Q LINEを活用した避難者受付の導入への見解は。

A 避難所DXを進めることで、避難者受付の円滑化や避難者情報の的確な把握及び共有に加え、被災者への効率的な支援が可能になると考えている。

<質問を終えて>

小平市では現在、避難所受付に紙の避難者カードを使用していますが、大規模災害時に約2万9千人の避難者情報を短時間でデータ化することは難しいとの答弁がありました。一方、多摩26市では避難者名簿の統一とデジタル化の検討が始まっており、市もデジタルチェックインの有効性を認めています。避難者情報をリアルタイムで把握できれば、安否確認や支援物資の配分をより迅速に行うことができます。高齢者などデジタル機器が苦手な方にも配慮しながら、紙やタブレットも併用し、誰一人取り残さない避難所DXを早期に実現するよう求めています。

Q 誰一人取り残さない避難所運営をどのように考えているか。

A 避難者受付の際に、デジタル機器に不慣れな人への操作支援や、スマートフォンを持っていない人に対する紙による受付など、避難者の状況に応じて対応ができるよう検討していく。

日々の活動



第25回わくわく納涼祭



市民と議会の意見交換会

ちょっとブレイク！

小平グリーンロードは、玉川上水や野火止用水、狭山・境緑道、都立小金井公園を結ぶ、約21kmの水と緑の散歩道です。彫刻の小径や小平ふるさと村、農産物直売所など、見所満載です。健康づくりやフレイル予防を兼ねて、自然豊かな遊歩道を散策してみませんか。



小平グリーンロード

「第42回たいようセンターまつり」に参加！

9月27日、小平市立たいよう福祉センターで開催された「第42回たいようセンターまつり」に参加しました。地域の皆さんや学校、関係団体との交流を通じて、センターの活動や障がいへの理解を深める、子どもから大人まで楽しめるお祭りです。ステージでは、こだいら十三小よさこいによるオープニングをはじめ、和太鼓TerraやLaLaの演奏、小平こども劇場の人形劇、こげら合唱団によるフィナーレの合唱など、多彩な催しが行われました。ポッチャや手話、点字、ガイドヘルプの体験コーナーもあり、私は自分の名前を点字で作ったり、アイマスクを着けてガイドヘルパーの腕につかまりながら歩いたりしました。どちらも普段の生活では得られない、貴重な

体験となりました。子ども広場では、工作やアートパルーンを楽しむ姿が見られ、スタンプラリーで会場を巡る子どもたちもいました。模擬店には、たこ焼きやじゃがバター、クレープなどが並び、私は焼きそば、焼き鳥、フランクフルトをいただきました。また、生活実習訓練室の利用者による染め物作品や、手作りサロンの作品の販売、小平十三小学校の児童による図画作品の展示もありました。特に驚いたのは、小平市のごみ袋の開け口に点字が入っていると知ったことです。いつも使っているのに気付いていませんでしたが、目の不自由な方への配慮が身近なところにあることを知り、うれしく、少し誇らしい気持ちになりました。



こだいら十三小よさこい



染め物作品



ごみ袋の点字（赤丸部分）



模擬店



ポッチャ



メダカすくい

お困りごとやご意見がありましたら
ぜひご連絡ください。



HP



X
(旧Twitter)